

町立津南病院での地域医療研修を終えて

東京慈恵会医科大学附属病院 研修医2年 岩田桃佳

二ヶ月間にわたり津南町で地域研修を経験させていただきました。この期間は、私にとって医師としての姿勢を改めて見つめ直し、多くの学びと気づきを与えてくれた非常に貴重な時間となりました。

病棟や外来での診療では、指導医の先生方が常に真摯に向き合ってください、医学的知識だけでなく“患者さんに向き合う姿勢”そのものを学ぶことができました。日々の診療の中では、症状の背景にある患者さんの生活や価値観まで丁寧に拾い上げ、治療方針に反映させる姿を間近で見て、多くのことを吸収しました。特に外来では、病態の説明の仕方、患者さんの不安に寄り添うための表現、診察室での空気づくりといった“コミュニケーションの技術”が診療の質を大きく左右することを実感しました。わかりづらい話をどう噛み砕いて伝えるか、患者さんが本当に聞きたいことは何か、一つひとつの会話に意味があることを教えていただき、自分自身の今後の外来診療の在り方を考えるきっかけとなりました。

また、訪問診療に同行させていただいた場面では、地域で生活する方々のリアルな環境を目で見て、肌で感じることができました。住み慣れた家で家族と共に過ごしたいという思い、病院では見えにくい生活動線の工夫、ご家族の負担や支援の必要性など、外来や病棟では決して知ることのできない多くの視点を得ることができました。医療は患者さんが生活する場と切り離せないものであり、地域医療とはまさにその方の人生を丸ごと支える営みであることを深く理解しました。先生方がその人の生活背景に合わせて治療を調整し、地域全体で患者さんを支えていく姿に触れ、自分も将来、このような医療を提供できる医師になりたいと強く感じました。

研修期間中の津南町での生活も、とても温かいものでした。雄大な自然に囲まれ、四季を肌で感じられる環境での毎日を送る中で、美味しい食べ物や地域の方々の親切な言葉、穏やかな町の空気が、研修生活をより充実したものにしてくれました。診療の場以外でも、地域に根ざした温かさや、人と人とのつながりの力を強く感じる事ができ、それもまた地域医療の大きな魅力だと気づきました。

今回の研修を経て、自分が将来どのような医師になりたいのか、どのように患者さんと関わりたいのかという問いに対して、以前より明確な答えを持つことができるようになり

ました。医療資源の限られた地域で、患者さんの生活に寄り添いながら診療を行うというスタイルは、医師としての“本質的な役割”を思い出させてくれるものでした。津南町での学びは、これからの研修、そして医師としてのキャリア全体において、大切な軸となると思います。

この二ヶ月間の経験を糧に、今後も知識と技術を磨きながら、将来は何らかの形で地域医療に貢献できる医師になりたいと強く思っています。

温かく迎えてくださり、多くのことを学ばせてくださった津南町の皆様、そして指導医の先生方に深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。